

いいチームだ

2022.7.7

もう一月前になるが、福島支部中体連総合大会が6月7日（火）からあった。本来であれば、6月9日（木）までであったが、生憎の雨模様となり順延となった。数日間、雨交じりの曇天が続き、お日様が顔を出すことはなかった。

本校の部活動で一番影響を受けたのが野球である。2日間延びた。ようやく6月9日（木）に試合を迎えた。それまで雨が降っていたため、グラウンド状況が心配された。だが、会場に行ってみると、何とか試合ができる状態になっており、正直驚いた。こうなるまで、多くの方がグラウンド整備に関わってくださったのだろうと思うと、ありがたかった。

試合が始まった。試合に出ている9人が一生懸命プレーをしている姿はさわやかだった。これは、相手チームも同じである。以前、高校に勤務していたときにも試合を見に行っていたことがある。そのときも同じことを思った。高校野球のファンになるのもうなずける。そのときも、ずっと高校生の試合を見ている方が何人もいた。

余談ではあるが、高校野球では、試合前の練習で指導者がノックをする。皆さん、素晴らしい。一番むずかしいのがキャッチャーフライだろうか。聖光学院高校の練習が始まった。斎藤智也監督はノックはしないだろうと思っていたら、本人が見事なノックを披露した。

中学生の試合は、間違いなく高校野球につながっている。試合に出ていないメンバーが一人一人役割を果たしている。一塁コーチャー、三塁コーチャー、ボールをふく人、審判の方の水分補給のためペットボトルを届ける人、ベンチで声を出す人、それぞれに重要な役割がある。多くの人間が動いて一つの試合が成り立っている。これらは、急に大会に出てできるようなものではない。普段からやっていなければ、本番の大会で動けるものではない。自然と、野球の、あのきびきびした行動につながる。

子どもたちは、野球を通じて、技術面、精神面だけでなく、多くのことを学ぶだろう。まわりを見るようになる。気を利かせるようになる。今、自分は何をすべきかを考えるようになる。この経験は、世の中に出てから必ず役に立つ。

野田中学校野球部は、見事に初戦を突破した。試合後にベンチに行った。すぐに整列してくれる。そこで私が言ったのは、「野田中学校野球部は、いいチームだ。俺はファンになったぞ。明日も勝つぞー」である。いいチームなのである。心から応援したくなる。

このチームの指導者は、3年目のH先生である。ベンチでずっと声を出していた。一番出していた。「自分には、これしかできませんから」と本人はいうが、そんなことはない。彼が、このいいチームをつくったのである。大したもんである。野田中学校野球部は、いい先生がつくったいいチームである。